坪内博士を憶ふ

市島謙吉講演原稿

特別
ヌ6
8495

特
Z6
8495

堀内博士を懐ふ　市島謙吉

私ト東海道の旅行ヲ名古屋の停車場ニ着シタル時
いつも堀内君の家ハ此辺ニ在ルト指差シ乍ラ
ソノ地区ガ変リ、郊外地ノ苗鳴村デアツテ
住人ハ家ハ、さびしい村落デアツタ
ヨハ木葉ノ垣根ガ有リ、大停車場ノ所在地ト
ハ、私ノ七八年前名古屋ノ友人ヲ伴ハレテ始

の日本ラインの勝を採り、其の風景美を
[illegible]自分の取つた他の一つは、北のラ
インの河から、近く大田の荘を望んだことである
つまり、こゝは木曽川が氾濫すると水害の
つゞく地で、尾張藩も常に警備を怠らず、こゝ
の代官所が置かれた程の要
人が、若い頃深い縁故のある地で、時の折り北地
を藤さん[illegible]、其境を目睹した時の北時が
始めて[illegible]私は大田の荘を望みながら、
恰度若と若かの交りを稽され追想[illegible]

若い北方の生んだ
のだ、

七月帝大同窓時代修学旅行せし時は、昌平休暇で家に帰つてゐる博物君を訪ねて、昔の話し等に話が出て、君と伴れて得月橋とゝゝに、幾度か訪ねたことを思ひ出し、同行者の得月橋とゝゝ創立者いまゝ創立者のあるかと聞かれたら、共家に名士倒れ今は名士の老舗だと答へて、急いで家に行つてみれば、上りこゝに帰途に就いて、得月橋の[illegible]は[illegible]年前の[illegible]事を追懐し、遠かに博物君に書を寄せて感想を[illegible]市ゝゝ

[illegible]とゝかゝる旅行の淡劇情趣を紙面に[illegible]

君の紀念の古稀の

のとくらん（空の所金と名を付け蒐集した時であります。）

私が坪内先生と因縁話一を[illegible]講演の冒頭に特出したのは、[illegible]と謂ふ[illegible]畑[illegible]知れたる[illegible]

六十年[illegible]の長州の交りを[illegible]現はす[illegible]

[illegible]因縁話コンナ因縁話で大体の[illegible]話[illegible]を[illegible]

[illegible]いと思ふからであります。実は坪内

[illegible]りまして。

君を[illegible]話さうべきことの

四5

[illegible]

くらべがさて年[illegible]とすると、何を得つとよいか、
得つべきことが多い処は、甚だ惑ひます。
世間でいう故人の行跡を善く知つてゐる人が滑山
をみます。書術方面の事でいう[illegible]私ならば
逐うにしてみる人が多くあります。私
から特に此方面と就て重ねて言ふ事[illegible]
ばかりと思ひます。私の寧ろ[illegible]世間の知らぬ
い方面で[illegible]が故人を知られ一番大切であらう
とも中[illegible]を見ないと思ひます。

[illegible]

5

故人の業績を称賛する人々は、一概に故人の天才であるとして簡単に片付けますが、私が故人の作品を見て感じますのは、故人の決して斯る[illegible]に満足せず、[illegible]人であり、あの人の少壮より文藝に命を芸術に天命があつたに相違ないが、そんなかけがえのない人を造り上げたと謂ふ事は、参考になります。

此処に或る故人は私の例の如く、[illegible]さんの若い時分に、[illegible]人でしたと、私は同窓時代から思ひ出の業を忘れません。業績を出うみた自動車のこと。

を馳せて、[illegible]の美男子であつたかどうかは
能優のやうしい感がある。如何なる滿洲の優しい
人でも、何時も人と接する時は、ひとりとして、極めて柔順で
あつた。[illegible]人を呼ぶ時は、姉さんとやさし
く云ふのだと云ふ。此滿洲の美男子が笛
を持てば、馬琴もどきの[illegible]七五調の名文が成
り、時々四、三馬を淡くやうな滑稽を混ぜる。
で、戯作者の青雲の既と備つて居る。滿洲の大子
じこんだけの芸があるのだから、[illegible]すると隠居
の花鳥を語る譚で、一歩を誤れば「戯作者と

成り果つる比かも知れないのかあつた。
君は後年よりつて自分の若い頃の事を回顧して
自分も時々言ふ比、実はあの頃いつくしんで
比。振り返ると実にお助けのしいと言ふ比が全く共
自分の通りだ。「君の青春」若い頃すいろいろの誘惑
惑がありつも、君は危ない所へ誘りんとする比
当時小説を書くことの傾倒は芸文の門に入
つて「文」の一字を侍翼でやるこころ比る所
本を書いて到底畏の人とうーんとうなるまい国
の如きし君僕は説うなやこるこうつと比が式

8

八十勝一此び屋さんが、伸ばすことが出来なか
つたのである。君の手で大坂の有力なる[illegible]
をもくりに活用と受ければ、若し開業を敢て入と欲
[illegible]恐[illegible]一生地方[illegible]知[illegible]
[illegible]君の此等危険の[illegible]激を隔て立つて、此流石
[illegible]物主の地歩を保つに、[illegible]君の言葉の素
質[illegible]高等の教育[illegible]が然らしめたれ相違
ない。[illegible]若し更に進れもやつぱりそれが生活取
り返しのつかぬことになつたかもしれないのだ

ちゃん

（きこと）

君ハ苦つて来られし、自分の発憤して志を立て此動機の[illegible]の事が長兄から叱られたことが、芸端を[illegible]と、偉くない人達の発憤の動機ないハ、大抵ロクナ[illegible]ことの此、君の[illegible]大学在学中早やく自立の人となり、学資を家兄と立てくること[illegible]自分ら働きつゝ学資を[illegible]の実を云へバ君ハ当時苦学生であつた。偉し此苦学時代君の貧弱な下宿に日居して君の監督の下に在つた。山崎光次郎、立浪次郎等と云ふ人々ハ共に堂々たる大家となつて、君自身も此の共通に因つて大学修養を遂げたのである

[illegible]元の吉時の[illegible]
[illegible]生活も表と真剣の人とをすき初めの頃四
[illegible]
君が大学を出の書生気質をきいろうか小説神
[illegible]を著し[illegible]
し此時は、君が著作に熱[illegible]時も[illegible]
君の著すれ任かす[illegible]
山創作が出[illegible]事情の[illegible]を許
さざるべき。とうのの文学大限度を信じて起さ
んと、早大の前身東京専門学校の振り巻如しく文

12

教鞭を取らざると得ざるとの如き。君のこんが為め文
学のみならず、[illegible]とか出来ず、政治学や[illegible]
論や歴史、[illegible]の[illegible]の科目を授けて[illegible]創造な
どする時がなかりしの如し。こんが式十年の長い間淡い
心が君の力で早大の文科が開かれ、君も[illegible]文
学を教くるやうになり、[illegible]初めて君の[illegible]
[illegible]の科が他日君の光耀
をなす大なる[illegible]階梯をなしたことを思へば、
君がもし教育を能事とし取つて味し
と無益でい無つた。否な君の人格を化するに

(此時ごろ早稲田に文科が[illegible])

12

13

常の助をなして相違ない。
尚は君の早大で教鞭を取る傍ら、早中の教頭
や校長となつて、十年間も中等教育として
倫理や哲学を研究した。
こんな
ことが君の教育を忙しくし創作の時間が少い
研鑽を々殺めん此が君の此の忙がしい間にも文藝
上の新運動を起さうとされた。君因の文藝上の
後の偉績の皆此間から起つてゐるとも云へる、當時
手う君の[redacted]を知るものへ、アタラ天能を中学校

13

育されに廢滅せしもの多く不幸にして捨てられ
たりとも、ひそかに感じ此のことも多くつたが、実のよ
く考へると、君の人格を低り上げ此の人、全く此等
●教育と任じ此結果であると思はざるを得ない。
君が軽佻の業を脱して真剣の人となり、●文の業
界の原野を拓くに至り一山を開き師表として行
さう、やうに此の結果であると思はれます、
君を取つて雄偉の時代の君の偉業の時で
君の一世の師表たらんとする前に先づ自分
ら修めた此のである若し君の素質べるある天才

15

の奇[illegible]故[illegible]を任ずるも氣儘に行動したら必ず悲
しき人を服する[illegible]程の大文豪の人であつた。
君の文学は珍らしい人物である。藝術家の奥
ハ往々偏[illegible]癖に陥[illegible]るが君の博大[illegible]博大
の人の動もすれば越ゆる所なき趣
味の人は貴今の成さんとすることの、何れも徹底
[illegible]君の克己力は驚ろくべきこの
び[illegible]半年以後の君とを比
較すると全く別人の如き思ひがある。自分などは
徹底せざる止まるつもりなり

15

が最も敬服するのは君が終始文藝の原野を開拓するの素
内者を以て任じたことである。君は常に大なる炬火を
掲げて未開の文藝界を高く照らした。君は道を拓けば後
日を閉ぢ、一意草分をやつた。君は道を拓けば後
事を人に托して、ツン〳〵前進した常にイニシヤチーヴを
取つた。実を云へば一旦開けた道を教化理するには種
々の人があつて助らずしも君と雲もぬ。倒くは文藻の
如き君よりも優れた人はいくらもあつた。君
は芝蘭と芳ふことを忘れず、一旦荊棘を拓き、行くべき
道を指し示す事を任務とした。だから、君は一
世は短かいが、君の業績は甚だ長と四半世紀とが出来る。仁人

明治以来多くの文人もあれど、名彫の方が一人もなく、称すべきメリットの人もあつたが、皆名彫は概ね一時的で、長く残らない。君は桂さい名彫を尊重し、[illegible]

こんも必竟天の業績の偉大であるから、[illegible]の事だ。

[illegible]

のように四五の文豪と文部省が奬励し、初めの四五の後補者がありたが、殿さ[illegible]金を[illegible]とかなつた。

[illegible]

17

18

與坂の侯爵としても弱の死を知んもあるこ

を受けることが大切で、北の人い貴族全るで

しれ。折角の有の経験者の新祖世の人

んこと面目が潰れる。所から上田の荒年始末の早

稲の大きく未だ知らぬ好田居を共つもらい

ないと、愛子の軍るびありて、自分の共を依

とし、なぬ居を共の七れか、君の北の城全を得

ると、耶蘇の生活をも胡文人の家庭をこと

んと欲ずしも自合の一金を私しまう

メル

18

性向君の如く文藝に忠実に勤勉奮精の人い極めて稀なるべき
君い長く教育を経て極めて多忙の人であつたが其の間に
忙の間に高情と外四方文学を傳と深く研究し市井の
文学にも常に注意を拂つて門下生徒の作まむ目と通
し、其間に種々の創作をやり、其の創作を実演する為め
に、家庭と舞台を作り、子女に舞踊を教へた。君い思へら
く日本の舞踊に世界に特徴があり、世界の大ぺうは
西洋と東洋とあるが、日本の舞踊の姿態の大なる趣があると。君の歌曲い時代見地なく創作
され、其実演に君自から舞台に上つて演者を指導し

ル。又劇の改良とも思ひ立つて、文壇の協力を乞ひ、新俳優を養成し、君の芸術を對する新行実践に、世界を名乗い、コグ子さんと敵の趣を同じ、すること、なる。君は俳優として舞台を立たうと駄目ッ子さんと同様だが、自身の骨肉を舞台を立たせたことは偶然にもコグ子さんとの出来ない。

君の業績に就ても、[illegible]の沙翁四十八番の全譯である、劇を以つて生涯を送つた君としては此の事業をなしうるのは、実に大事業であつた。抑も君がシーザー音演と廣報

以上によって知られたように五十年の昔と様変りである。中さん度々譯して頂く様にとのことである。西洋ものも完譯は無論あるが、坪内君の如く舞台に充分の心得のある人の譯は我々と無いの如く意味で彼の坪内君の譯は、世界を誇ることが出来るのである。試みに森鷗外氏のマリベスと坪内君のマリベスとを比較して見るがよい、後者は何人をも直ちに判し得るであろう。一方は直譯ばかり一方は内容の精神が深く那本である、坪内君の苦心は神を邦人に理解せしむるに在つたのである。英国学者の批評として「イキリス人の心と日本人の心とを密接に接觸せしめ

坪内君の偉業

云ふ此心嘗て共通りであつて、斯まで湧きつけた坪内君の芸の容もなきものであり、或る人の言ふた、坪内君の譯は君の創作と見做さるべきものだと、自分らも甚だ同感のものである。君の最後まで沙翁と征打を續けて終に病を冒してまで奮闘して死期を早めた如し全部の新修を畢つたから、沙翁を終に征服したとも云へる。病床を冒しても奮闘を續けて終に斃れた如く君も奮闘の中に斃れたが君に於て遺憾ないと云ふべきである。

君の或る年輩から志きらん藝術の真剣が無いかと思ぬとか漫して先づ自身の遊戯的態度を排斥した。

[illegible]大いに改まつた。君の講演を聞ける無
味のある弁説や、朗演や、演説などを聞ける結果
[illegible]人を魅するのみならず、動もすれば
[illegible]的の果を達するかのやうに誤
解するものがあつたけれども、君の目標は厳の涙
解のごとくに在りといふ。今く真剣の
どう説けば人が理解するか、どう話せば人が感
ずるかを、聴者の面白くなつかへて上
るけれども、君の命ずる所、君の成る
事から使命を帯びて席上演説をする
ことの校の校友会

実に君が少壮時代得意ひ[illegible]つ比続の天[illegible]
ハ君の我的のようなものであるつ比から君の共態度を
改めて人切なる[illegible]ハ[illegible]甚べき事、文章ならば
[illegible]

23121

ことを痛感したが、実に聴者が演説の[illegible]
魅せられ、[illegible]と迄我的の誤解を受け
ることを厭あれのみである。
君の七十七の齢で設立のい場ちがいであるが実
八年を経て[illegible]いう別して君が続ちだ
恒度[illegible]足跡を考くると、よく働
らいたこの[illegible]君の蔵弱の質が何十年
[illegible]迄後的に[illegible]時代[illegible]
忘れ悩んだが、[illegible]等を考へ[illegible]
齢を保つたと云く[illegible]君の気魄が生き

26

（このと思ハんら、[illegible]の乱世の偉いようで、）

[illegible]既に古稀の齢を迎へ

[illegible]ハ[illegible]と思はれる。

しうらひも、大衆の前に三時間を豆る朗読を

つゝけ、一語の[illegible]する喉を入れ[illegible]おゝ[illegible]

俵色ちゝ鮮かに[illegible]やつしものけハ[illegible]

位まる。

君と就て言ふべきことがまだ澤山[illegible]

遠慮ちゝ時間が許さぬ。唯私[illegible]

[illegible]ハいことの君の義術を忠誠ちゝ一生

のべ血をとゝす涙いれのみでちゝ物笑的な

もの[illegible]ちゝあるものを[illegible]

校 27

君の古稀を寿するに当り〔起つた〕その活動協和館のこと

きも、まんと君の物質的援助で出来た公民館のことよ

ごある。君は[illegible]向上のためにれんに[illegible]宅卸郎土地

世話[illegible]

多くの脚本や[illegible] 興行権[illegible]を寄附

して我々を遣す所がない。こん[illegible]を[illegible]操出

[illegible]。而も君は[illegible]

[illegible] 君は断[illegible]

[illegible]現の[illegible]文人に於て稀の先例のもの

所である。君自ら[illegible]所を[illegible]能

[illegible]

の精神のいつまでも[illegible]。永続するに相違ない。君の肉体は亡びても君

26

高山彦九郎先生は君の一生を概観するに、君は後醍醐天皇の訓を張し北人の為めを思ふ、君は正しく主君侍中の人にして君の如く志を立て克己、精勵の真剣にあらんば彼人が如き偉業の成ることを如実に示してある、又君の如く逆境に抑て人を驚かす人の義を温情にあらんば天下を敵とする君の如く不羈にあらんば高歩して一世を指導し得ることも示した。凡そ北海道の君の足跡から何人も微い湯の数訓にあるを惟ふに勢力をもつて彼人が如き人が出来たら、一概に好国君の天才の多を称するかきい君をいくらかいふ故人の本意をもつて人を侵略したこの論説をなすこと

此の譜漢い譜漢者自身の筆録と係う多少
增損し以所があることを お断りして置きます。